

ファカルティ・ディベロップメントの概要

1. 実施報告

本委員会における主な活動は「授業評価」「授業公開」「FD 研修会」の3点である。2022年度においても2020年度からの国内新型コロナウイルス感染防止対策のため、本学のFD活動においてもその対応を迫られることとなったが、5回の委員会をはじめ各種研修会を対面形式で実施することができた。

今年度新たな試みが1点ある。例年実施している授業見学においては、授業の質的改善・向上を目的として、授業見学の際の視点・チェック項目を新たに設定し、指導と評価の一体化を図る機会を設けた。また、この見学記録の集計・分析をIR課と連携しながら進めた。

学修者本位の教育への転換をめざし、教学マネジメント具現化に向けた取り組みと位置付けられる。

授業評価の中心的な取り組みである「学生による授業評価アンケート」は、昨年度に続き総合教育システムを使用してWeb上で実施した。総合教育システムはUNIVERSALPASSPORTの授業評価アンケート機能を使用して実施した。アンケート結果に基づく教員の学生へのフィードバックコメントの提出は、例年通りアンケートフォームを使用した。

授業公開に関しては、おおむね昨年度と同じ内容で実施した。原則すべての授業を対象とした(ネイティブの教員との英会話を主とする「コミュニケーション演習」においては、業者委託による授業であるという事情から対象外とした)。授業公開は、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、直接教室で参観することを基本とした。この授業公開の実施は、授業評価アンケートの結果を授業改善に活用する重要な機会であると考えられる。

「FD・SD 研修会」においては、近年シラバス作成上で求められている科目ルーブリックの考え方と作成方法について、昨年度に引き続き理論研修を行った。今年度は理論研修に加え、実際に科目ルーブリックを作成する演習を行った。ディプロマ・ポリシーを踏まえ、「出口における質保証」の充実・強化につながる取り組みとなった。

例年実施している授業に関する学生・教員交流会は、1月12日(木)対面形式により実施した(一部Zoom対応)。メインテーマを「これからの時代の授業の在り方を考えようーオンライン・ハイフレックス・対面授業を経験してー」とし、トークテーマを① オンライン授業ならではの「良さ」は?② 対面授業ならではの「良さ」(オンラインでは学べないこと、経験できないこと)は?③ オンライン授業・オンデマンド授業に向いている科目、向いていない科目とは?④これからの授業形態の可能性の4つを設定し、グループごとにディスカッションを行った。

以上